

受入校からみた教育実習の実態調査に関する報告

柴山 直 (新潟大学教育人間科学部・教育科学講座・教育心理学)
高橋 桂子 (新潟大学教育人間科学部・生活環境学科目・家庭科教育)
鋤柄 佐千子 (新潟大学教育人間科学部・生活環境学科目・家庭科教育)
五十嵐由利子 (新潟大学教育人間科学部・生活環境学科目・家庭科教育)

平成 13 年 8 月から 9 月にかけて行われた、新潟県における「学校インターンシップ」制導入に関するアンケート調査のうち教育実習に関するデータの分析結果を報告するものである。調査は主として、「現行の教育実習」、「学習支援ボランティア」、そして「学校インターンシップ」の 3 つから構成されている。本報告は、このうち受入校の校長・園長あるいは教務主任ないしは実習担当者による回答に焦点をあてた分析を行い、よりよい教育実習の運営に資する情報を得ることを目的とした。その結果、1) 教育実習生の存在が学校に活気をもたらす一方で、2) 子供たちが落ち着かなくなる、3) 学習進度が予定より遅れる、4) 実習受入校側の担当者の負担が大きいの、などのマイナス面が改めて浮き彫りになった。また、大学における教員養成教育カリキュラムの中に、5) 指導案作成技術を初めとする指導技術の一層の向上、6) 礼儀作法など社会人としての基本的マナーの修得、を促すプログラムの整備が急務であることが示された。

[キーワード] 教育実習 教員養成 実習指導 教生

1. 問題と目的

教育現場の様々な問題に即応できる実践的な教師教育のカリキュラムの必要性が叫ばれるようになって久しい。その具体的方策として、たとえば、「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係わる教育職員免許法の特例等に関する法律」を根拠法として、個人の尊厳、社会的連帯の理念に関する認識を深めることを目的に、平成 10 年度大学入学者から、社会福祉施設や特殊教育学校などで 7 日以上いわゆる「介護等体験実習」が義務づけられていることなどが指摘できる。さらに、大学における教員養成教育の質的充実をはかるため、「教職課程の充実」、「大学教員の指導力の向上」に加えて、大学と教育委員会との連携がこれまで以上に重要視されるようになってきたことも、その一例としてあげることができる(文部科学省, 2001)。

そうした流れの中にあっても、教職を目指す学生達が、実際の学校現場に出て、子ども達とふれ合い、学校という一つの組織の中で働くことの意義を実感する機会としての教育実習は、依然として大きな役割を果たしている。そこで、本報告では、平成 13 年 8 月から 9 月にかけて行われた、新潟県における「学校インターンシップ」制導入に関するアンケート調査(新潟大学教育人間科学部教官研究集会実行委員会, 2002)のうち教育実習に関して得られた、受入校の校長・園長ないしは教務主任ないしは実習担当者による回答に焦点を当てた分析を通して、よりよい教育実習の運営に資する情報を得ることを目的とした。

2. 方法

新潟県内の市町村のうち新潟市、長岡市、三条市にある国公立学校園(幼稚園、小学校、中学校、計 188 校園)の校園長を対象に、平成 13 年 8 月から 9 月にかけて、質問紙法によるアンケート調査を郵送形式によりおこないデータを収集した。質問内容は柴山他(2002)に報告した通りである。このうち、今回、焦点を当てる「現行の教育実習」の概略は、

1. 教育実習生の受入の有無、
2. 年間受入平均数、
3. 新潟大学生の割合、
4. 配属学年、
5. 実習科目(中学校)、
6. 教育実習生達の児童・生徒への影響、
7. 実習生受入に関しての問題点、

となる。他に「学習ボランティアの受入状況(平成 12 年度のみ)」、「学校インターンシップ制」についてのアンケート調査も合わせて実施したが、その分析結果は柴山他(2002)を参照されたい。

アンケートを送付した 183 校のうち計 128 校から回答を得た。回収率で見ると 68.8%となった。そのうち学校種等などの情報が未記入なため不完全データとなった 6 校をのぞく計 122 校(全体の 66.7%)を分析対象とした。学校種別・地区別にみると幼稚園が三地区合わせて 6 園、小学校では新潟地区が 38 校、長岡地区が 23 校、三条地区が 11 校の計 72 校、また中学校では新潟地区が 25 校、長岡地区が 14 校、三条地区が 5 校の計 44 校であった。また、アンケートの記載者の内訳は校長職にあるものが 63 名(分析対象校の 51.6%)、教務主任・実習担当の方が 59

名(48.4%)であった。実務的な観点からみても妥当性の高いデータであるといえる。なお、本報告では回答傾向に学校種別・地区別による大きな偏りは見られなかったため、分析観点もそのような区別を基本的には設けずに分析を進めることとした。

3. 結果と考察

3.1 教育実習生の受入実態

「貴校では『教育実習生』を過去数年間で受け入れられたことはありますか」という質問に対しては、「ある」が104校(85.2%)、「ない」が15校(12.3%)、不明が3校(2.5%)となった。次に、「貴校における教育実習生の年間受入人数は平均にしておよそ何人くらいでしょうか」という質問については、図1のようになった。5名から20名前後まで受け入れている学校が70%以上あり、教育実習についてかなりの協力がなされていることが分かる。

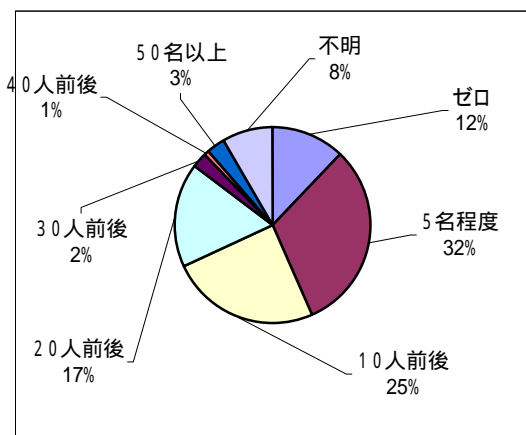


図1 教育実習生の年間受入数

さらに、受け入れている実習生のうち新潟大学生が占める割合を尋ねたところ、77校(63%)までが新潟大学生を受け入れており、さらに、そのうち63校(全体の51%、受入校数の81%)において新潟大学の学生が7割以上を占めていた。新潟大学の教員養成教育にとって、地元学校からの協力がいかに重要であるか、また、逆にかなりの負担をおってでも教育実習生を地元学校が実地に教育してくれているか、この数値からも明らかであろう。

3.2 配属学年

次に教育実習生達が配属される学年を、学校種別に見ていくと、まず、すべての幼稚園で「年少組・年中組・年長組のいずれにも均等に配属」との回答が得られた。小学校では「中学年に配属」が15校(有効回答数のうちの26.8%)、「いずれの学年にも均等に配属」が38校(67.9%)、「中学年か高学年に配属」とした学校が3校(5.4%)であった。さらに、中学校では「1年

生もしくは2年生に配属」が6校(有効回答数のうち14.3%)、「いずれの学年にも均等に配属」が35校(83.3%)、「3年生に配属」が1校存在した。

おそらく実習生の受入数との兼ね合いで、指導担当者等の負担を分散する目的もあって、いずれの学校種にあっても「均等に配属」というパターンが大半を占めるのであろう。また、小学校で中学年に配属数が中学年にも比較的多いのは、この年頃の子供達がいれば児童期の完成期に当たり、心理学的にも安定した状態にあるからと言えるであろう。

なお、中学校に於ける受入教科に関する、「受け入れてこられた教育実習の科目に をつけてください(複数回答可)。」という質問に対しては、ほとんどすべての学校から、すべての教科に対して「受け入れている」旨の回答があった。さらに、大規模校では養護教諭の教育実習生を受け入れているとの回答も寄せられた。

3.3 教育実習生達の児童・生徒への影響

教育実習生達が学校に与える影響について調べるために、「教育実習生たちの存在が児童・生徒あるいは園児たちにどのような影響を与えていますか。お気づきの点がございましたら下の欄にご記入下さい。」という質問のもとに自由記述で回答を求めたところ、幼稚園で6園、小学校で54校、中学校で34校の計94校から回答が得られた。記述内容を詳細に分割すると、幼稚園で11、小学校で77、中学校で46の計134個の意見が寄せられていた。

その内容は、子供たちへの影響や教師への影響という意味で、学校全体に好影響をおよぼすという観点からの肯定的な意見が119(88.8%)、マイナスの影響面を指摘した意見が13(9.7%)であった。

肯定的な意見のほとんどは、たとえば、幼稚園では「子供たちにとって親しみのもてる新鮮な人的影響として、良い影響を与えていると思う」、また、小学校では「若い人がはつらつと行動し、活発に子供たちに働きかけてくれることで、子供たちが非常に喜び 様々な活動にいきいきと取り組むようになり、好影響を与える」、さらに、中学校では「生徒は年齢が近いこともあり、親近感をもって接し、活気がみられる」などのように、実習生が「若い」が故にもつ、子供たちへの新鮮な影響力を指摘したものであった。その具体的な影響としては、「学生を中心としたグループが形成され、日頃遊べない子が友達と遊べるようになる」、 「学級担任以外の指導者に接し、それまで見えなかった能力や人間性が見えてくる」、 「担任にない特技(楽器が上手など)や良さを受けている」、 「人的環境が変わり、学習に対してやる気がでる子がみられる」などの意見を列挙することが出来るであろう。意識するにせよ、しないにせよ、ある意味で閉じた集団の中に

形成されてしまった教師を含む子供たち相互の位置付けではない視点からの教育実習生たちのアプローチがこのような好ましい結果を生んでいるのだともいえる。

一方、子供への影響ではなく、教師集団への好ましい影響として、「職員自身が自己の実践を見直す機会となり、教育活動に活性化をもたらす」や「(全力投球する実習生の姿を見て)職員も自分が不足している点に気付いたり、刺激になる」などの意見もあった。

これに対し、好ましくない影響としては、幼稚園においては、「担任との間の安定した関係が壊れる状態もみられる」、小学校においては、「(好ましい影響もある反面)子供たちは落ち着かず授業中もざわざわしている」とか「実習生への甘えが増し、ひいては、集団生活に対する自覚を弱めるところがある」などの指摘があった。また、中学校においては「積極的に生徒と関わろうとしない実習生が増え、生徒に良い影響も悪い影響も与えないで去っていく人が多い」、「(クラブ活動が廃止されたり、大規模校であるがゆえに)授業での触れ合いのみで終わってしまいがちである」、「教えることが未熟な学生であるため、日頃指導を受けてきた先生と比較し、不満を口にする傾向が見られる」などの意見があった。

部分的には次でも見るようにいろいろな問題点は存在するが、総体的には学生たちが持つ若さ故の活気自体が学校そのものにプラスの影響を与えていることが伺える内容であると言えるであろう。

3.4 実習生受入に関する問題点

教育実習生を受け入れるに当たって受入校が困惑している問題点に焦点を当てるため、「教育実習生を受け入れるにあたって特に困りのこと、問題点などがございましたら、下の欄に忌憚のないご意見をご自由にお書きください。」という質問で、上と同様に自由記述式で回答を求めた。幼稚園より6園、小学校より49校、中学校より38校の計93校(76.2%)の回答が得られた。また、意見は延べ数にして、幼稚園が13、小学校が90、中学校が68の計171個の意見が寄せられた。教育実習生の影響についての質問に対するよりも、中学校で20以上回答数が多いのは、それだけ実習生受入について現場サイドでの問題があるということなのである。

回答内容は大きく、

- 子供たちへのマイナスの影響、
- 学生の取組姿勢に関するもの、
- 学生の指導技術に関するもの、
- 実習指導に関するもの、
- その他、

に分類できる。図2に示すとおり、特に「学生の取組姿勢に関するもの」が34.9%、「実習指導に

関するもの」が32%と回答の7割近くを占めている。

問題点として指摘が多かった順に見ていくと、まず、学生の取組姿勢については、「教員希望の学生とそうでない学生の実習意欲の差」を指摘する回答が代表的なものであった。その具体例として、「遅刻」「期限を守らない」「乱れた服装・髪型・茶髪・ピアス」、「言葉遣い」「挨拶」「全体会での居眠り」など、いわゆる社会人としての基本的なマナーの悪さが数多く指摘されていた。その結果、「教育実習の指導内容として、教育者として、人間としての礼儀作法などの基礎・基本を取り入れなければならない現状」が受入校ではあり、実習の本来の目的である「指導内容や方法、指導技術等の指導がじっくりできない」ことが問題点として指摘されていた。

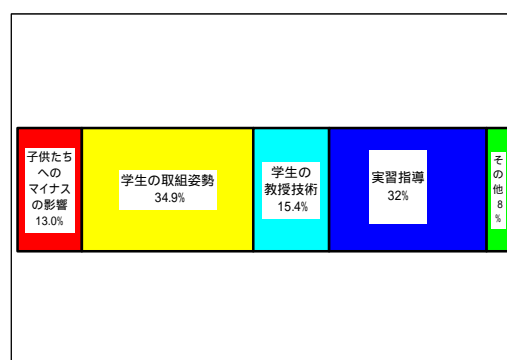


図2 実習生を受け入れるにあたっての問題点

次に、実習指導に関する問題点として一番多かったのは、とにかく現場サイドが多忙になり、指導教員の負担増についての声であった。また、実習期間によっては学校側の行事日程や教師の研修日程とぶつかり、その負担増に拍車をかける現状である。その結果、「実習生の配置を希望しない」場合や「受入を断る可能性」もあるとのことであった。

さらに、学生の指導技術に関しては、「指導案がまったく書けない実習生がいる」ため、「教科教育法等で事前に学習して欲しい」という意見が典型的であった。現場任せだと、現場が困り、保護者から苦情が来たり、子供たちに悪い影響、特に学習進度の遅れなど、を及ぼすことはいうまでもないことである。

また、子供たちへのマイナスの影響としては、学校のリズムや規律が乱されること、子供たちへの迎合、子供たちから落ち着きがなくなること、子供たちの言葉遣いが乱されることなどが指摘されていた。また、「生徒と年齢が近いため、超えてはいけない一線を守れない実習生」の存在や「生徒の中には友達感覚で実習生に近づき、実習生の中にも生徒と同じ感覚で応じる者がおり、節度がなくなる面がある。特に女子生徒にその傾向があり、一部男子学生に問題がある。」と

の指摘は、看過できないものであろう。

4. 結論

以上、アンケートデータに基づいて受入校側が感じている教育実習の問題点を見てきた。いずれも、これまで大学側も経験的に認識していたものである。そして、「社会人としての良識や基本的マナーの指導」や「指導案の作成を初めとする指導技術の指導」は従来、現場任せにしてきたことも否めない。また、そうした事柄は、実習生の大学側の指導教員がいわば個人的に教えてきたものでもある。しかし、実習など現場へ赴く際の学生たちの準備状況の低下が目立つ現在、そうした指導に加えて、大学の教員養成プログラムの中に、「社会人としての良識・基本的マナー」といったいわば社会的な常識を明示的に教えるカリキュラムを早急に組み込む必要があるのではないだろうか。

文 献

- 柴山 直・高橋桂子・鋤柄佐千子・五十嵐由利子
(2002) 学校インターンシップ導入に関するアンケート調査の報告, 新潟大学教育人間科学部附属教育実践総合センター研究紀要 教育実践総合研究 創刊号 75-90.
- 新潟大学教育人間科学部教官研究集会実行委員会
(2002) 平成13年度教員養成大学・学部等教官研究集会報告書 94-108.
- 文部科学省 (2001) 魅力ある教員を求めて
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/miryoku/010801.htm

謝 辞

本研究は平成13年12月8・9日に新潟大学教育人間科学部で開催された平成13年度教員養成大学・学部等教官研究集会(主催:文部科学省・新潟大学)第3分科会「学校インターンシップのあり方」のために実施したアンケート調査のデータを分析したものである。貴重なお時間を割いてアンケートに御回答頂きました関係学校園の先生方には、厚くお礼申し上げます。

資料1 教育実習生の存在が生徒・児童・園児に与える影響についてのコメント一覧

学校種	教育実習生達の存在が生徒・児童・園児達に与える影響
幼稚園	・いろいろな人とふれ合うことで人的な刺激を受ける。 ・担任以外の大人がいることで大人とのふれあいが多くなり遊びの中での支えを受けやすくなる。
幼稚園	・お姉さんたちの存在を喜んでいる ・担任との間の安定した関係が崩れる状態も見られる。
幼稚園	・最初の2日位は 自分の方に気を引かせる行為をするが、その後は、自分のやりたいことをやっているで 大きな影響はない。 ・なかなか担任に甘えられない子どもが実習生さんにベタベタついていることもある
幼稚園	・いずれも若く身近な存在として歓迎する。 ・更に、教師として認識せずいわば「卵」として見て(認識して)いるため、安心して甘えたり、会話する。息抜きの存在であるようです。
幼稚園	・子どもたちと一緒に遊んでくれるため、一人一人の遊びが充実する。 ・また、年齢が若く、子どもたちも身近に感じている。
幼稚園	・子どもたちにとって親しみのもてる新鮮な人的影響として、良い影響を与えていると思う。
小学校	・若い人(他の教師に比べ)が、はつらつと行動し、活発に子供たちに働きかけてくれることで、子供たちが非常に喜び、様々な活動にいきいきと取り組むようになり、好影響を与える。
小学校	・学校生活に活気が出たり、楽しさを感じたりする児童が多いが反面、落ち着きがなくなる児童もいる。 ・いろいろな大人に接することができる機会となる。
小学校	・子どもたちは仲間のような感覚で遊んでもらえると喜び 学校生活に活気を与える。 ・その反面子供たちは落ち着かず授業中もざわざわしている。
小学校	・児童が生き生きと活動的になる。
小学校	・児童にとっては、新鮮で身近な存在であるという印象を与えている
小学校	・指導の技術は稚拙でも、授業づくりの意欲が感じられるためか、学習への参加意欲が高くなる。よく話を聞くようになる。 ・共に活動してくれる身近な存在として親近感をもち、活動的になる。普段よりエネルギーになる。
小学校	・児童は、教育実習生が来ることを大変心待ちにしていました。
小学校	・職員自身が自己の実践を見直す機会となり、教育活動に活性化をもたらす。 ・児童も実習生との活動や交流を楽しみにする。
小学校	・年齢が近く、休み時間になるとよき遊び相手をしてもらい活動が活発になる。 ・学生を中心としたグループが形成され、日頃遊べない子が友達と遊べるようになる。
小学校	・話し相手として、担任とは違った親近感をもって接する様子が伺えます。(話しやすい面もあるようです。) ・外部の人ということもあって、又、他クラスと違うこともあって活発な動きが見られることが多かったです。
小学校	・若い実習生に対し、親近感を持っている。 ・実習生は行動力が豊かなため、学校全体が活力に満ちてくる。 ・学級担任以外の指導者に接し、それまで見えなかった能力や人間性が見えてくる。
小学校	・子どもと年齢的な差が少ないことから、子供たちは実習生に気軽に話しかけたり、遊び相手として求めたり、心を開いて相談をもちかけたりしている。 ・子どもにとっては教育実習生の若さが最大の魅力のようであり、また、間違っても失敗しても評価されないという気安さもあって、学習に積極的に取り組む。
小学校	・遊びや授業に活気が生ずること。
小学校	・新たな出会いと分かれ、若い学生とのふれあいなど貴重な体験ができる機会である。
小学校	・いずれも若く身近な存在として歓迎する。 ・更に、教師として認識せずいわば「卵」として見て(認識して)いるため、安心して甘えたり、会話する。息抜きの存在であるようです。
小学校	・お兄さん、お姉さんのような親しみを感じる存在。

小学校	・学習意欲の向上 ・多様な人間性に触れられる
小学校	・課題が増える,新しい遊びを知る.
小学校	・学校全体に活気が出る. ・子供たちは,実習生との生活に期待を持っている.
小学校	・教育実習に意欲的に取り組む学生のクラスの子供たちは,学習活動および日常の学校生活においてよい刺激を受け,喜んで活動している.
小学校	・気楽に接することができる安心感がある. ・未熟ななかにも,ひたむきに子供たちに接する態度は,人間らしさを感じさせる.
小学校	・子供たちは一緒に遊んだりしてくれるので楽しんでいるようだ. ・しかし学習面では困惑されているようだ.
小学校	・子供たちは教育実習生に親近感を持ち,活動が意欲的に展開される.
小学校	・子どもは,自分の思いや願い,考えをストレートに,実習生に伝えている. ・おにいさん,おねえさんの存在
小学校	・子どもは若い教育実習生が大好きである.その最大の理由は一緒に遊んでもらえることであり,話を聞いてもらえる時間が多く持てることであるようだ. ・子どもが生き生きする.
小学校	・親しみやすく,いろいろ話ができたり遊んでもらえたりして大好きな存在になりやすく,それにより子どもが活気づくような感じがする.
小学校	・実習生と一緒に遊んだり話し相手になってくれるので大変喜んでいる. ・担任にはない特技(楽器が上手など)や良さを受けている.
小学校	・実習生の活気あふれる態度が,親しみと学習意欲を高めることにつながっている.
小学校	・実習生の若さが子供へのプラスの働きかけになる.(遊び,共に活動する)
小学校	・実習生を身近かに感じ,教えてもらったり遊んだりするのを楽しんでいる様子が伺える.
小学校	・児童と積極的にかかわろうという姿勢が子どもたちにも活気を与えている.
小学校	・児童は「教生先生」として職員の1人として認識しながらもより身近な存在として親しみをもって接している. ・時としては遊び相手としてもとらえており,好ましく思っている.
小学校	・児童は喜んで受け入れ,活気付く事が多い.
小学校	・自分たちと一緒に遊んでくれる身近な存在としてとらえ,学校全体に活気が出る.
小学校	・人的環境が変わり,学習に対してやる気のでる子が見られる.
小学校	・すぐ打ちつけて仲良くなれる.担任より以上心を開く場合がある.
小学校	・卒業生の実習生であり,子供たちが将来の進路を考える上での具体的な参考例になる. ・教員配置に余裕のない現状に,一定期間ではあるが若々しい教員が増えることで職場が活性化し,子どもが喜ぶ.
小学校	・大学の年齢層の人達に会う機会が少ないので興味津々のようです.
小学校	・担任教諭より身近なお兄さん,お姉さんという感覚で接し学校生活のハリにつながっていた.
小学校	・当校に実習に来る人たちは,当校の卒業生です.子どもたちも,本人も,自分の学校という気持ちでつながっているようです.子どもたちも実習生によくつき,自然に教育効果があがっています.
小学校	・年代が近いので,心の余裕を生みやすい. ・反面,実習生への甘えが増し,ひいては,集団生活に対する自覚を弱めるところがある.
小学校	・年令差がないことで,友達的な関わりが生まれ,子供たちは生き生きと実習生に接する姿が見られる. ・このことは,現教職員への反省材料(いい意味で)となる.
小学校	・年齢的に近い実習生が来ることで活気が高まった
小学校	・表情が生き生きとし,教室内に活気が出る.
小学校	・服装・言動・行動すべてに渡って影響を与える. ・実習前のオリエンテーションで特に注意を呼びかけている.
小学校	・フレッシュな存在として児童に清新な風を送ってくれていた.
小学校	・身近なお姉さん,お兄さんという気持ちで接し,あこがれや尊敬の気持ちを抱いたり,意欲をわき立たせるような影響があるのではないか.

受け入れ校からみた教育実習の実態調査に関する報告

小学校	・やさしいお兄さん,お姉さんとして,様々な人とふれあうこと,学ぶ姿勢を考えることに役立つ
小学校	・若い学生とのふれあいを子どもたちは喜ぶ.
小学校	・若い感覚で児童に接してくれるので,休み時間や放課後の遊び・ふれ合いを児童が楽しみにしている.
小学校	・若い先生が来てくれたということから,学級の雰囲気ははなやぎ子どもたちが活気づく.
小学校	・若いので,子供が接しやすい.一定期間だけだから全力投球している実習生が多い. ・職員も自分が不足している点に気付いたり,刺激になる.
小学校	・若さあふれる情熱
小学校	・意欲的な学生が多く,子ども達も好感をもって楽しみにしています.学校に新鮮な風を吹かせてくれています.
中学校	・自分たちに年令の近い存在として,気軽に話をしたり,体験を聞いたり,学校の中で自分の気持ちを素直に出せている子が少ない.
中学校	・教生先生として,新鮮な,息抜きになるような感覚を与えている. ・兄や姉と接する感覚で親しく会話している場合もある.
中学校	・親近感(年齢的に近く,親しみをもって接している) ・異質性への理解(自分と異なっている存在を意識する) ・一生懸命教えていても,稚拙な教授法に対する温かい理解
中学校	・新鮮さを吹き込んでくれているのではないか
中学校	・生徒と年齢差が少ないため,気軽に話せる存在となり,生徒の心を開いてくれる. ・熱心に教えようとする姿勢から,生徒が教えてもらうこと,学ぶことに,違った目が開かれる.
中学校	・生徒は年令が近いこともあり,親近感をもって接し,活気が見られる. ・体験を話してもらい(道徳など),喜んでいる.
中学校	・短期間の実習ということもあり,特に顕著なものはない.
中学校	・目的を明確にしている生き方に触れて,進路について考えるようになることがある. ・部活動などで,一緒に活動する中で専門性を生かした確かな指導を受けることができ,活動の充実につながる.
中学校	・明るく積極的に生徒に関っていく姿から,親近感を感じているようである.
中学校	・新しい先生,これから先生になる先生として,新鮮なイメージと好印象を与えている.
中学校	・一生懸命に取り組む学生が多く,よい刺激を与えている. ・生徒たちにも新鮮な印象があり,笑顔で接している.
中学校	・活気が授業時間外の時に見られる.
中学校	・活気を与えてくれる.
中学校	・教師にとっては多忙になるが生徒にとっては若いお兄さん,お姉さんがきたということで楽しそうにしている
中学校	・校内に,若いエネルギーを与える上で,有効である.
中学校	・校内の雰囲気若がる.生徒も気楽に声かけをするので活気生まれる.
中学校	・新鮮な刺激で緊張感を醸成する.
中学校	・進路啓発にもなり,また年齢が生徒に近いこともあって実習生の来校は活気をもたらす.
中学校	・積極的に生徒と関わろうとしない実習生が増え,生徒により影響も悪い影響も与えないで去っていく人が多い. ・意欲的ではない実習生には,生徒が近づいていかない.
中学校	・大規模校のせいか授業での触れ合いのみで終わってしまいがちである.(クラブ活動廃止のせいもあり)
中学校	・近い年令なので,お兄さん,お姉さんのように感じているようだ.
中学校	・日常生活における新鮮さ
中学校	・年齢が近いので,生徒には身近に感じられ,親しみをもって接していたようだ.
中学校	・年齢が近いので親近感を持って接する. ・そのため実習生のかかわる授業,諸活動に意欲的に取り組む生徒が多い.
中学校	・年令的に接近していることから,生徒と親しみ易く,授業等に活気が出てくるようである.
中学校	・年齢的に近いので,親しみやすさを感じている.
中学校	・フレッシュさに対して興味・関心を高めている.
中学校	・放課後活動などをいっしょにすることができ,生徒は喜んでいる.
中学校	・本校の卒業生で,生徒と年齢が近いので,生徒は親しみをもって接している.
中学校	・前向きで積極的な実習生は,生徒の親近感を生み,先生よりは'お兄さん' 'お姉さん'的存在になり,さまざまな悩み等を相談し

	たりできる関係で、教師とはまた違った機能、働きをしてくれる。
中学校	・良い影響:年齢的に近いことで、生徒と一体となった学習が生み出される傾向が有り、生徒の意欲の面で変化が見られる。 ・悪い影響:教えること未熟な学生のため、日頃指導を受けてきた先生と比較し、不満を口にしたりする傾向が見られる。
中学校	・若い学生の生き方、考え方が生徒に意欲向上や将来の進路に対する関心を高めてくれる。
中学校	・若いということが、とても生徒に影響が大であるという感じである。(いいにつけ悪いにつけ) ・プラスのほうが大きいように思われる
中学校	・若い人たちが10人以上来るため、生徒たちは喜んで迎えている。 ・実習の2週間、全体的に浮き浮きした雰囲気となる。

資料2 教育実習生を受け入れるにあたって指摘された問題点一覧

学校種	教育実習生を受け入れるにあたっての問題点
幼稚園	・自分の力で遊んでいくよりも大人を相手に遊ぶことに陥る子どもも多い。 ・教師と子どもとで築いている学校のまとまりが乱れたり、子どもの集中が散漫になったりする。 ・教育指導が続くことで子供の中に満足できないための不満が重なり生活に落ち着き、集中がなくなる。
幼稚園	・できるなら同じ人がじっくり1~2ヶ月くらいを実習にあてて、落ち着いて取り組める形が双方にとって良いのではないだろうか。
幼稚園	・指導教諭の指導を素直に受け入れられない学生がいて困ったことがありました。 ・教育実習に余裕がないのか笑顔がなく、子供の前にでた時せつなくなる。
幼稚園	・指導に時間をとられるため、園内での研修ができなくなる。
幼稚園	・子どもたちの要求に何でも応じてあげるため、子どもが、できることにまで手伝ってしまうことがある。 ・一クラスにおける実習生の配当が多すぎると、実習生への指導が深まらないことがある。
幼稚園	・教科の進度が遅れる。(一応期間中の進度はあるものの、やはり、やり直して授業するため)。 ・実習生指導のための業務が「おまけ」として追加されるため 指導担当の教師の負担が増える。 ・形づられていたルール(日常的なしくみ秩序)が崩れ、建て直しが大変。 ・女子学生の口調(話しことば)や態度に影響され、言葉遣いが乱れる。
小学校	・教員として好ましくない服装、言動がみられる実習生がいること。
小学校	・「指導スタッフ又は業務の手伝い」としてよりは「指導の対象」として職員はとらえており、実習生の指導にはかなりの負担を感じている教員が多い。 ・私学等から個人的に実習を希望してくる学生にはそれなりの目的意識と責任感が感じられる。
小学校	・ぎりぎりの時間配当で教育計画を組まざるを得ない現状なのに、実習生が加わることで教育計画がくわゆるのが難点である。
小学校	・指導案作成が計画的にできない学生がいた場合、支障をきたすことがある。 ・遅刻する学生があり、好ましくない。
小学校	・教員を希望する学生とそうでない学生の間、実習内容に対する意欲の差があり、指導教員にとってもまどいがある。
小学校	・指導する担任等に時間的なゆとりがなく、適切な対応ができにくいこと。
小学校	・実習後の授業に、補教が必要な場合がある。 ・実習生の実態にもよるが、時間の守れない状況が見られる年度がある。その場合は、きびしく指導した。
小学校	・教育実習の期間中、学校現場は仕事量が一気に増える。 ・日常でさえ仕事に追われるような教師にとって教育実習生の「基本的な生活規律」にまで及ばなければならない指導は大変な労力である。 ・職業観、倫理観、使命感まで指導しなければならない実習生が残念ながらいることも事実である。 ・また、大学側の学校現場との連携も希薄なのでないか。立派な後輩教師を育てることは大切な我々の任務だと承知しているが、大学でもっと人間教育をきちんとしてほしいとお願いしたい。
小学校	・子供に迎合しやすい。

受け入れ校からみた教育実習の実態調査に関する報告

小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・実習生の指導に大変気を使う。(疲労度が大きい) ・学習の進捗が遅れる場合がある。 ・実習生によっては余りやる気の無い者もいる。
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・指導に当てる時間の確保が難しく、多忙感が増す。
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が教育実習生に甘えることから学校生活にけじめがなくなることがある。 ・教科内容によっては、同じところを再度授業しなければならないことがある。 ・評定を高くしなければならないということに疑問を感じる。
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容の理解が浅くなる傾向がある。 ・学習の進捗が遅れる傾向がある。
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模校ほど学校運営上、何らかの支障が生じてくる。例えば、実習終了後、進捗の調整、子供たちの意識転換を図る、軌道に乗せる、Etc. ・大局的には、子供たちには効果大であると考えている。
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・実習期間は、子供が落ち着かなくなる。実習生の自覚と節度で問題になる年もある。
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・差が大きいこと。
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・実習に関わる活動が入るため、学校運営に支障が生じる場合がある。 ・実習生のサービス・勤務に甘さがある(例えば遅刻)。 ・教諭が多忙の中、実習生の指導も集中的に行うことが難儀である。
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・教科の進捗が遅れがち。 ・教育実習生の指導時間が十分に取れない。 ・忙しさが倍増。
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・大勢の学生を受け入れるという事で控え室の確保、指導体制を整える部分で、担当の配慮が必要である ・春、秋とも行事と同時進行の部分が出てくるので十分な指導のできない時期がある
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の忙しさに実習生への指導が加わるため担当教師は大変忙しくなる(5時すぎでの指導が多い)。 ・授業を持ってもらうために進捗が遅れたり、やりなおしたりしなければならない。
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着きがなくなる児童が増える ・授業の進捗が遅くなりがちになる
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・指導にあたる時間を十分に取ることができない。 ・教員の中には、自分のことで精一杯のため、自教室に配置されるのを希望しない者がいる。
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学習進捗がどうしても遅れてしまう。
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・実習生の自覚にばらつきが多い。 ・勝手な言動等モラル、マナーの悪さが目につく。実習生もいた。(指導に素直に応じる実習生が多いが、中には自分の生き方だ等主張して指導者を困らせる実習生もいた。) ・実習生の指導教官の熱意にばらつきがある。
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案が全く書けない実習生がいる。教科教育法等で事前に学習しておいてほしい。 ・やる気の感じられない実習生の対応に困る。
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日が真剣な学習の場なのに、あからさまに、子供を実験の道具として扱う学生がいる。 ・長髪、茶髪、全体研修会での居眠り、指導案作成の手抜きなど、基本的な実習の構えに欠ける学生がいた。 ・実習関係の書類(届け)の記入、提出がいかげんで粗雑。 ・以上はもっと実習生を事前に学生に指導すれば解決できる。 ・現場任せだと、教育現場が困り、保護者から苦情がきたり子供に悪い影響を与えたりした。 ・各学校の実習の反省会で大学当局で申し上げた。
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・単位修得のための実習にならないように。 ・実習を通して教員としての適性を高めてほしい。
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・上記のように、子供たちに積極的に働きかけると同様、教師たちにも、質問するなど能動的に動いてほしい。 ・友達感覚の部分と、指導者としての立場と切り替えができるようになっていないと、子供たちと「なれあい」の学習や活動になることがある。
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・将来教職を希望しない学生の中に、前向きに取り組まない学生がいること
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・指導時間不足

小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習に対する心構えの指導をお願いします。 ・教職希望の学生が減ってくることにともない、意識の低下が目だってきました。
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・計画が予定通り実施できない。 ・指導教諭の負担増
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・服装、髪、言葉づかい等、学生気分が抜けずに実習に来る傾向がある。意識に問題があるように思える。
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・指導時間プログラムの設定
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・普段通り、特別な構えなしで受け入れているので格別の問題なし
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・教材研究不足や子供への支援の不手際で、授業をやり直すことが多い。 ・学生によって、取組方の差が大きい。(個性ではなく)
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・どうしても学習の進度が遅れる。しかも子どもの理解度も浅くなってしまいますので、実習後に学級担任が補習せざるを得ない状況がある。
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・一人の実習生なら、問題点はないです。 ・6学級の小学校(1学年1学級)では、一人しかできないのが現状です。
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・児童と一体になり過ぎ、実習生自身が規律を乱してしまう場合がある。
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に受け入れたことはないが、どうせ実習生なのだからという甘えをもっていられては困ると思う。
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・単式6学級の小規模校のため、校務多忙になり、教育実習生を受け入れても十分な指導が困難である。
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・職員研修他の会議、会合の日程の設定がむずかしいこともある。
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・目的意識の希薄な学生の受け入れは問題をはらむ。
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習の指導内容として、教育者として、人間としての礼儀作法などの基礎・基本を取り入れなければならないような現状である。 ・教育実習生という甘えがあり、教育者としての自覚・責任感が不足している。指導内容や方法、指導技術等の指導をじっくりできない。
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・誰を、どの学年に、等、ピッタリあてることがむずかしい。 ・教員と歩調を合わせることは実習生にとってはかなり負担となっている。 ・実習生をかかえた学年は負担と感じていることが多い。
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・免許を取得するという目的だけで、教職への意欲・関心が低いと思われる人物の場合があった。
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・実習生の担当した教科の単元について、実習終了後に担任が、不備を補わなければならない場合があり、学習進度に影響が出る場合がある。 ・担任が今までの校務の他に実習生への指導を受け持つことになり、負担が大きくなる。
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・実習生一人一人の意欲に期待したい。
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・教科の進度が遅れる。(一応期間中の進度はあるものの、やはりやり直して授業するため)。 ・実習生指導のための業務が「おまけ」として追加されるため指導担当の教師の負担が増える。 ・形づくられていたルール(日常的なしくみ秩序)が崩れ、建て直しが大変。 ・女子学生の口調(話しことば)や態度に影響され、言葉遣いが乱れる。
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・教師としてというよりも一人の大人としてのマナーや礼儀に欠ける学生がいる。 ・生徒の人生に数週間でも関わっていている。 ・影響を与えるかもしれないとか、先生方に協力を得ているのだという気持ちが見えない学生は実習生としての確ではない。
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・十分な授業時間を確保してあげられないことが多い。 ・指導案の書き方など、大学の講義や講習で身につけているべきことが身につけていない学生が多い。
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・実習生が教師を希望していないケース。(意欲が感じられないなど) ・生徒に悪影響を及ぼすケース。(ヘアスタイル、ピアス、服装など)
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・服装、くつ等で生徒の前に立つにふさわしくない状況が見られる。(素直に指導に従い正したが)
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・服装の乱れ、言葉づかい、態度、あいさつなど、社会人として良識が欠ける行動が見られる場合がある。 ・子ども達と活動を共にし、汗する学生が少なくなってきた。
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・新大生のレベルが低すぎる。
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回一教科に学生数が偏ってくる傾向があり、人数の多い教科担任の負担が増える。
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査の近くの時期なので授業の遅れが出る

受け入れ校からみた教育実習の実態調査に関する報告

中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・指導教員への負担が多い。 ・授業時数の確保が困難な現在、各教科の進度への影響がある。 ・目的意識の低い、学生が増えており、余計な面で指導が必要であったり、気を使うことがある。
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・忙しい日程の中、教育実習生への指導のため無理をして時間をつくっている現実がある
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・時期がテストや行事、大会などと重なるため、じっくり実習したり指導ができない。 ・指導案の書き方を事前に勉強しておいていただければ、内容面の指導の時間がもっととれ、実習も深まる。 ・服装、頭髪など、ふさわしい身なりに努めてほしい。(今年度は良かったので引続いて)
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・テスト間近だと進度の問題が関わってくる。
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習専門の教師がいないため、受け入れた担当教科担任の仕事が急に増える ・本気に教員になりたいと言う意志の見えない実習生が何人かおり、気になる
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事等が実習期間中に入り、実習生の指導に集中できない場合がある。 ・2週間といってもテストや祝日があったりして、実質的な時間が確保しにくい。 ・ときに、免許状取得のための実習生で意欲的に教材研究や授業に取り組まないものが見られる。 ・実習生の指導に十分な時間を費やすことができない教諭ができる場合がある。
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・服装、頭髪等、価値基準のズレを感じる人が多い。 ・教師になるという意気込みが伝わってこないものが、目立つようになってきている。 ・人とかかわり(生徒を含めて)方が不得手になってきている。
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・多忙をさわめ、教職員が、実習生を指導するという点で、一層、忙しくなる点が、問題である。
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画に沿った指導に支障がある。 ・特に年間「4週間」となった場合、学校運営にも多大な悪影響が出るおそれがある。 ・このような場合、実習生を受け入れない考えもしている。
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の中には友達感覚で実習生に近づき、実習生の中にも生徒と同じ感覚で応じる者があり、節度がなくなる面がある。特に女子生徒にその傾向があり、一部男子学生に問題がある。 ・一部であるが、学習指導案や実習日誌等の提出期限を守れない者がいる。
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の多忙感の増幅 ・実習生の能力、資質
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科、各学級数人の実習生を受け入れているため、実習生が担当する教科や「道徳」、学級の時間の授業時間が不足してしまう。
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・中には生徒と友達感覚で接する余り、きちんとした指導が出来なくなる恐れがある。 ・校内で得た情報を面白おかしく生徒にしゃべった人がいた。 ・教材研究が不足のため、授業がスムーズに出来ない人が来ることもある。
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・指導の時間の確保(勤務時間内ではなかなか時間がとれないため、9時頃までかかることもある)
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・服務・勤務に対する厳正の保持 生徒と年齢が近いため、越えてはいけない一線を守れない実習生 ・服装・髪型などに対する基本的なモラルの保持 シャツの入れ方、靴下、外見、茶髪、ピアス、所持品など ・教育への理解情熱不足 投げやりの言動、指導教官の指示を理解しようとしていない
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・教材研究不足による指導案の未完成
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・受け入れ準備、指導計画(受入側として)の作成等、かなりの負担が、担当者に押しかかる。
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が行った指導内容を後日フォローする必要がある。 ・教師の指導担当者の負担増
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・実習生の教科の専門的な力の低下、社会人としての基本的なルールが身につけていないなど、学生の資質についての問題があること。 ・学校全体がとても忙しい時期で、実習生担当者の負担が大きいこと。
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・多数の実習生を毎年受け入れており、職員の負担増につながっている。 ・教科が重なると一層大変になる。
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導上の校内の雰囲気には張りが弱くなる。 ・学習指導でこれまでの教科担当の指導ベースが乱れる。

中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・実習生を25年間扱ってきて、特に次の3点が気になる。 ・表面的には楽しく親しそうな身振りはしていても、生徒の心の中にまで飛び込んでいこうとする気迫のある実習生は少なくなった。 ・(大学の指導の不備もあろうが)専門教科での授業イメージが乏しく個性的な授業を指導案で示し、実施できる実習生は少ない。 ・まじめに取り組むが、指導教師から具体的な指導、指示がないと行動できない実習生が多くなっている。
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・個人差はあるが、服装・身だしなみなど学習現場にそぐわない学生がいる。中学校現場の生徒指導の現実を理解してほしい。(茶髪、ピアス、マニキュア、ミニスカート等)
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の公務の忙しさに実習生の指導が加わると大変である。 ・実習を申し込みをしてくる学生の中で教師にはならないが資格だけとりたいという者がいる。そのような学生の受け入れは断っている。
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は6月中旬頃に、実習に来ましたが、学校行事等と重なり、実習生には十分な時間が保障されなかった。
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者の立場でなく、友達感覚で教育活動に取り組む場合がある。
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・単位(免許)の取得のみで実習する学生(意識低下、学力低下)への対応
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・実習生の教職に対する意欲、生徒への接し方、教科指導の能力、社会人としてのマナーに関して、年々低下傾向にあることを痛感している。
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・教師になりたい!という強い意思があれば十分です。
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・教員になることを目指している人は比較的熱心に取り組む勉強もしているのだが、そうでない人は、意欲に乏しいだけでなく社会的な常識(もっとも多いのが、実習日誌や指導案等を期限までに出さない)にも欠ける方が多い。